

# 令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

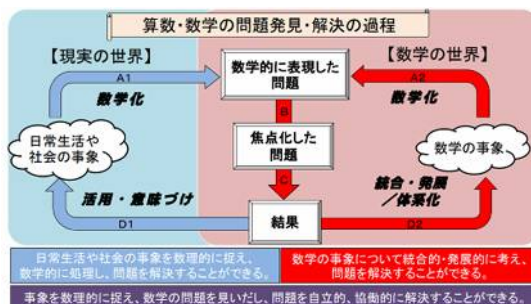
小学校 算数科

## 改善の重点

- ① 単元で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、資質・能力を育成するための数学的活動を位置付けた単元を構想すること。なお、数学的活動における算数・数学の問題発見・解決の過程の充実を図ること。
- ② 単元における評価方法や評価場面を工夫するとともに、実際の学習活動を踏まえ、「B と判断する状況」の例及び「C と判断する状況への手立て」の例を想定すること。

## 1 設定理由

小学校学習指導要領解説算数編第4章「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。」と示されている。



数学的活動は、基本的に問題解決の形で行われ、その過程では、児童が見通しをもって活動に取り組めるように配慮すること、児童が取り組む問題については、児童自ら問題を見出す機会を設けることが大切である。また、解決の過程では、問題を解決するために既習の何を用いてどのように表したり処理したりする必要があるのかについて構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けることが重要である。これらのことから、数学的に考える資質・能力を育成するためには数学的活動を位置付けた単元を構想することが重要となる。

学習評価については、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や方法を工夫して、児童の学習過程や成果を評価すること、教師の指導改善につなげること等が必要である。また、実際の学習活動を踏まえ、「B と判断する状況」の例及び「C と判断する状況への手立て」の例を想定し実践する中で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進め、数学的に考える資質・能力を、児童一人一人に確実に育成していくことが大切である。

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 単元など内容や時間のまとまりの中で児童の学習状況を適切に評価できるよう、評価場面や評価規準及び評価方法等を記載した単元の指導計画を作成すること。
- ② 学習指導案に「予想される『努力を要する状況』の児童への手立て」を記載すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所）
- ③ 義務教育課 HP 「早わかり！単元計画の作成手順」